

.....編集後記.....

◆1-3月号と特集が続いたので、今月号は依頼稿を中心にした通常号としました。ご寄稿頂いた周藤・石田・松田・井本・岡田の各氏にお礼申し上げます。36-65頁は2-3月号に予定されていたものですが、特集とのかねあいで、本号に掲載となりました。また、頁数の都合で今月は「学会掲示板」を割愛しました。

◆2-3月号の表紙については筆者が関係したので、ここで補足しておきましょう。これらは、昨年のIGCの折りに寄稿をお願いしたものです。2月号の牛木氏の写真はポスターセッションで、3月号のジム・ロディック氏(カナダ地質調査所バンクーバー支所前所長)の写真は筆者と同じ講演会場での発表にそれぞれ使われたもので、さっそく寄稿をお願いしました。ロディック氏は、花崗岩類の研究で著名なだけでなく、親日家としても知られている方です。貴重な写真を頂いたお二人にお礼申し上げます。表紙の写真は、いろいろな方々のご協力を得て、1年分ほど確保できました。

◆3月号のIGC特集は、全体の構成を組織委員会にお任せし、特例として本座事務局長に編集して頂きました。筆者のつたない写真が彼を苦しめたようです。多忙ななか編集の労を取られた本座氏に、編集委員会としてお礼申し上げます。

◆1月号のこの欄で佐藤委員長が少しふれていますが、昨年春の世界地質調査所会議(1992年11月号

8-13頁参照)をきっかけに、当所の情報提供はいかにあるべきかという課題が所長諮問として出され、2月からこれに答える議論が始まりました。本誌だけでなく所外に対する窓口の役割を果たす部門間の関係を密にする事がねらいのひとつですが、議論だけに終わる事なく、官庁組織に有りがちな閉鎖性が少しでも取り除かれるといった具体的な成果を期待したいと思います。

◆こうした議論の中でよく使われる“パブリックサービス”という言葉がカタカナで表現されるところに、この面での後進性が現れているわけで、きちんとした日本語が定着しない限り「文化」としても定着した事にはならないでしょう。カタカナの使用はともすると無原則になりがちですが、最近しばしば使われるオープンディスカッションなどという用語にいたっては、これはいったいどの国の事なのかと、思わず苦笑してしまうのは筆者だけではないでしょう。

◆これまで一緒にやってきた“戦友”とも言うべき事務局の山口秀樹氏が、4月1日工業技術院九州工業技術試験所へ転勤になりました。彼を失うのは我々としては大変残念ですが、新しい職場での活躍を期待します。年度が改まった機会に、編集委員会の構成も変わります。変更結果は次号に掲載する予定です。

副委員長 佐藤興平 記

地質ニュース編集委員会

委員長：佐藤壮郎

副委員長：佐藤興平・磯部一洋

幹事：宮崎光旗・奥村公男

委員：柴田賢・滝沢文教・岡村行信・村岡洋文・

渡部芳夫・井内美郎・金沢康夫・佐藤岱生

事務局：総務部業務課広報係(中島秀記・清水真寿美)

〒305 つくば市東1-1-3 地質調査所

地質ニュース編集委員会

事務局 Tel. 0298-54-3520

Fax. 0298-54-3533

地質ニュースに対するご意見は編集委員会へ

地質ニュース

第464号 1993年4月号

定価 ¥ 770 千実費

1993年4月1日 発行

編集

発行人

発行所

工業技術院地質調査所

林久雄

株式会社実業公報社

東京都千代田区九段北1の7の8

〒102

Tel. (03)3265-0951 (代表)

振替口座 東京 1-32466

麹町局私書箱第21号

印刷

小宮山印刷工業株式会社

©1993 Geological Survey of Japan

●本誌は東京都の霞が関政府刊行物サービスセンター、八重洲ブックセンター(株)本店およびつくば市の友朋堂書店本店に常備してあります。品切れの際は店頭で注文してください。